

第16号

すだち

発行：
高次脳機能障がい
徳島家族会「すだち」
住所：
徳島市新浜町3丁目
1-60(岩垣方)

～周りの理解が最大の補助具～

1月19日、高次脳機能障がい徳島家族会「すだち」の7回総会が徳島県立障害者交流プラザ（ボランティア室）で開かれました。

7回目となる総会には、当事者・家族ら18名出席のもと10時に開会しました。総会冒頭に、南川貴子氏（徳島大学医学部看護学校指導者）、石元康仁氏（徳島県精神福祉センター所長）、山口浩志氏（徳島県社会福祉士会相談活動委員会委員長）3氏の激励文が紹介されました。続いて岩垣会長から、永廣顧問のあいさつ文（議案巻頭に掲載）、の紹介と、25年の活動報告、決算報告がおこなわれ、貝出氏から会計監査の報告が行われました。

会計監査報告に続いて、平成26年の活動方針、会計予算案の提案が行われた後、出席者からの質疑が行われました。

質疑にたいしては、①会員に対しての会員名簿の配布については、個人情報のからみがあるので慎重に対応したい、会員相互の絆も考慮し、出来るだけ配布したい。②定例交流会では、場所、食事会、手芸、意見交換等弾力的に考える必要性③交流会の運営について会員の意見を十分に聴くことの必要性。④購入図書を有効に活用してゆきたい。⑤全国大会への参加、支出金が少ないのではないか（開催地にもよる）⑥徳島家族会では障害の害をひらがなに統一している。（2Pから議事報告掲載）



総会参加者



議案提案する岩垣会長

定例交流会の魅力ある運営を

2月定例交流会では、永廣顧問の出席も得て定例交流会の魅力ある運営について話し合いました。

永廣顧問からは、徳島大学が高次脳機能障がい対策の四国の窓口として活動しており、またスポーツによる頭部外傷の予防対策も発表した。来年3月には脳外傷学会が徳島で開催されることになっている。日本損害保険協会の協力を得て、高次脳機能障がいリハビリ講習会の開催をしていきたい。それに歯科との連携も進めているとの報告なされました。

また、会員からの意見としては、マスコミ対策強化、会所蔵図書の会員への周知、不用品バザー、調理実習、手芸・趣味の企画では、会員が参加して材料の調達等、定例交流会を魅力ある会にしていく積極的意見が出されました。

脳外傷学会において、当事者がリハビリ訓練で制作した作品を講演者に配布するために、手芸品の製作を進めていくことも協議されました。また香川との交流会の開催について、内容・場所等を検討していくことが協議されました。

会員の今後の現状・課題では、集団リハビリの実態、医科歯科連携パス（こうじのーと）等についても発言がありました。

=第7回定期総会の開催にあたって=

家族会の紹介を深めて

==岩垣家族会会長==



岩垣会長 溫暖化が進んでいるとは言ひながら、何とも寒い日々が続いております。新しい年を迎え、皆様いかがお過ごしでしょうか、平素は、当家族会「すだち」の活動について、いろいろとご支援、ご協力を賜り誠に有り難く、厚くお礼を申し上げます。

今回で、7回目の総会を迎えることになりました。丸6年が経過した今、振り返ってみると、色々なことが脳裏をよぎります。平成19年に、徳島大学医学部の「高次脳機能障害講演会」に参加して、初めてこの障害のことを知り、徳島県下で家族会を立ちあげました。その後6年間いろいろな曲折があり、徐々にではありますが、この高次脳機能障害と言うものが、世間に認識、理解されるようになりました。しかしこれまだ、いわば序の口のようなもので、専門の病院や行政等でも、窓口で尋ねても、要領を得ない対応が見受けられます。

今後、この障害当事者の社会への受け入れ復帰、自立を目指し、息の長い病院、行政、福祉、マスコミ、企業、学校等への働きかけが、まだまだ必要です。どうか皆さん、これからもご意見を出し合って、この家族会「すだち」が本当に私たちのために、社会のために、日本のために役立つように盛り上げていこうではありませんか。

皆様方の、今後のご多幸を切に願っております。

家族会の大きな飛躍を

「すだち」顧問

徳島大学高次脳機能障害支援センター長
永廣 信治徳島大学病院脳神経外科教授
新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひします。

1年が過ぎるのを早く感じます。年を経るごとにその感覚が強くなります。

少年時代の成長期の脳では、ゆっくりと時間がながれたくさんの事を吸収していたような気がします。加齢現象といつてしまえばそれまでですか、脳の対応力の問題かもしれません。

高次脳機能障害支援事業も、あれもしたい、これもしたいと思いながら、十分には進んでいないような気もして申し訳なく思います。しかし、高次脳機能障害スクリーニングテスト(徳島版)の論文も出版され、スポーツによる頭部外傷で脳障害を負う防御対策も見えてきました。医療・医学も進歩していないようで、10年単位で振り返ってみると大きく進歩している部分も多いことがわかります。

「すだち」の活動は、着実に進み成果をあげられていると思います。今年は午年で「すだち」も皆様もさらに大きな飛躍の年となることを願っています。

平成26年1月

お知らせ

高次脳機能障害実践的アプローチ講習会

日 時 2014年5月18日(日)、8月24日(日)、12月7日(日)10時受付

開催場所 東京慈恵会医科大学・西新橋校・大学1号館3階講堂(東京都港区西新橋3丁目)

内 容 上記3期日に分けて、中島八十一氏をはじめとして12名の方の講習。

費 用 一期日5000円

詳しくは「すだち」事務局にお問い合わせください

《総会に寄せられたメッセージ》

暮らして、生きやすい社会の実現に向けて

石元康仁徳島県精神保健福祉センター所長

第7回総会、おめでとうございます。

高次脳機能障がい徳島家族会「すだち」が第7回総会を迎えたことを、心よりお慶び申し上げます。

平成18年に、高次脳機能障がいについて知つてもらうため、県下で講演を始めた時に、徳島には何もないなど、しみじみ感じたことが思い出されます。

平成19年7月には、徳大の永廣教授に中核支援施設をお引き受け頂き、中村先生にはコーディネーターとして支援して頂いております。

そして、平成20年1月27日に、高次脳機能障がい徳島家族会が結成されました。短期間に家族会ができたことに驚かされ、皆様の熱意を感じました。その後も、岩垣会長さんはじめ、会の皆様に、大変助けられておりましたこと、この場をお借りしてお礼申し上げます。

精神の手帳を申請される方々が年々増えてきており、少しづつは普及啓発されているのかと思っております。一般の県民の方々に障がいを正しく理解して頂くには、明るく、生き生きと活動している当事者やご家族の皆さんのお姿を、自分の目で、直接見て頂くことが一番の説得力になります。

どうぞ今後も、障がいを持つ県民が当たり前に暮らしていく、偏見や差別のない徳島、だれもが暮らして、生きやすい社会の実現にご協力を願います。高次脳機能障がい徳島家族会「すだち」のご発展を、いつもお祈りしております。この度は、まことにおめでとうございます。

平成26年1月19日

高次脳機能障がいへの理解を

山口浩志徳島県社会福祉士会相談活動委員会委員長

本日は盛大に総会を開催すること、誠におめでとうございます。

思えば、平成20年1月に家族会設立以来、今回で7回目の総会とおうかがいしておりますが、岩垣会長様はじめ、当事者の方や、ご家族の方等、貴会運営にあたり絶大なるご貢献をされ、また様々な機関や専門職の方などと適切なる連携をされてきた賜であると、心から敬意を表します。こうした皆様おひとりお一人の貴会運営への熱意が会全体の原動力となり、私たち専門職をも導いていただき、感謝申し上げます。

私たち、徳島県社会福祉士会相談活動委員会としましては、高次脳機能障がいへの理解と学習を年間事業計画として毎年取り組ませていただておりますが、会員たちから少しづつではありますが、理解者は増えてきているようです。制度のはざまにあり、サービスの恩恵が受けられない方々もまだまだたくさんいらっしゃることだと思いますが、あきらめることなく、これからも共に活動に参画させていただき、ソーシャルワーカーとしての技術を磨き、ネットワークを活かして、貴会会員様へ少しでもお役にたてるべき活動を続けたいと思いますので、今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

福祉士会としてのご挨拶にかえさせていただきます。本日は、誠におめでとうございます。

地域社会と連携して制度の充実を

気軽に話し合える家族会に

徳島大学医学部看護学校指導者南川貴子

明けましておめでとうございます。

本日は参加出来ないため、お手紙で失礼いたします。

昨年度は、自分はほとんど定例会に参加出来なかつたのですが、パソコン講習会や俳句の会などの企画も増え、さまざまに挑戦されてすばらしいと思います。

11月の講習会では看護の学生に当事者・家族の方々からたいへん貴重なお話を聴かせて頂きました。ありがとうございます。看護師や保健師をめざす学生の記憶に皆さんのお話が強烈に印象に残ったと思います。

今後とも家族会がより一層、高次脳機能障がいの当事者や家族の方が少しでも悩みを共有し、解決あるいは軽減できるような会であって欲しいと望んでおります。ひとつ提案なのですが、毎会は難しいと思いますが、定例会の後に可能な方は一緒に食事に行ってもっと気軽に話ができるような機会を設けてはいかがでしょうか。今年も皆さんと一緒に頑張りたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

第7回総会報告

はじめに

「心から心へ！理解しあえる、安心感の持てる関係」とした全国スローガンの基に、高次脳機能障がい徳島家族会は、昨年（平成25年）

1月に第6回総会を開き「見えない障がい」「谷間の障がい」と言われる脳の障がいを抱える当事者と、その家族が結集する「すだち」の一年間の活動への取り組みを確認し、当事者とその家族らの情報交換・交流の場として取り組んできました。（中略）

こうしたなか、4月からは、これまでの「障害者自立支援法」に代わり「障害者総合支援法」が制定されました。悪法と言われた障害者自立支援法の中身をそのままに改定され、障がい者を取り巻く状況は厳しいものとなっています。そうした中、日本脳外傷友の会では、昨年9月大分で「～周りの理解が最大の補助具～」をテーマに全国大会を開催し全国活動を確認しました。私たち家族会「すだち」は、定例交流会を開催し会員間の情報交換と交流を引き続き発展させていきます。

障がい者施策の改革・改善が見えない中、障がい者を抱える家族は、当事者と共に活動を強化し、障がい者が自立できる社会を目指して行きます。月例交流会を中心に主な活動内容の報告と、今後の活動予定について、報告提案を行います

活動経過

1) 定例交流会の開催状況

昨年に引き続き、定例交流会を第三土曜日と確認し、毎月10時から2時間の交流会を開催してきました。今期も毎回半数以上の会員さんの出席があり、充実した定例交流会となり、会員間の情報交換の場としても前進しているものと思っています。今後も日時の設定、交流会内容等を工夫しながら当事者・家族が参加しやすい状況を作り出すことも必要だと思います。各定例交流会の内容を以下報告します。

- ① 2月会「すだち」ホームページ開設
- ② 3月会、たらいうどんを食べながら
- ③ 4月会会員の近況を話し合う。（昼間様出席）
- ④ 5月会、川柳に挑戦

- ⑤ 6月会、高次脳機能障がい者に対する支援の説明（ナスバ担当者出席）
- ⑥ 7月会、高次脳機能障がい者に対する行政への要望。
- ⑦ 8月会各種障がい者手帳の説明を受けました。
- ⑧ 9月会高次脳機能障がい県内の現状。
- ⑨ 10月会 行事多数のため中止。
- ⑩ 11月会 リハビリ講習会の実施。
- ⑪ 12月会 たらいうどん交流会

2) 徳島高次脳機能障がいリハビリテーション講習会

11月16日(土)高次脳機能障がい徳島家族会(すだち)主催の徳島高次脳機能障がいリハビリテーション講習会が、徳島大学医学部臨床第二講堂にて当事者・家族会をはじめ医療関係者等118名が参加し開かれました。なおこの講習会は(一般社団法人)日本損害保険協会の助成事業として開催され、合わせて徳島県社会福祉士会、徳島県医療ソーシャルワーカー協会、徳島県精神保健福祉士協会、徳島県社会福祉協議会の後援を得て開催されました。

講習会は、永廣徳島大学脳神経外科教授のあいさつのあと、「高次脳機能障害における職業リハビリテーションの現状と課題」と題して、田谷勝夫氏(独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構障害者職業総合センター・特別研究員)の講演がおこなわれました。つづいて、「高次脳機能障害の新たな診断方法の確立をめざして」と題して、河野豊氏(茨城県立医療大学神経内科・准教授)から一びまん性軸索損傷に対する経頭蓋磁気刺激による誘発脳波の臨床応用についての講演がおこなわれました。

3) 香川家族会(ぼちぼち)の交流会に参加

9月8日香川総合リハビリセンターで開かれた「ぼちぼち」(香川脳外傷友の会)の会議への参加呼びかけに応えて、「すだち」(高次脳機能障がい徳島家族会)からは当事者家族9名が参加しました。



4) 脳外傷友の会第13回全国大会

日本脳外傷友の会第13回全国大会が、「周りの理解が最大の補助具」をスローガンに9月28日ホルトホール大分(大分市)に会員、関係者300名が集い開催され、また大会前夜の27日午後6時から大分オアシスタワーホテルで全国交流会が開かれました。すだち「徳島家族会」から参加しました。大会前日27日の交流集会には、当事者、家族ら291名が出席し、大会実行委員会を代表して現地大分県の菅嶋会長が歓迎のあいさつ、東川全国会長のあいさつに続いて、全国の参加者の紹介、アトラクションとしてミニコンサートがあり、最後に大分の特産物が当たる抽選も行われ、全国の会員の懇親交流会がひらかされました。翌日28日は、ホルトホール大分で年次大会が菅嶋現地大会実行委員長のあいさつで開会し、来賓参加のあいさつに続いて、24年度当事者活動奨励賞の授与が行われ、脳外傷友の会「みずほ」の佐藤勇樹さんら4名が表彰され、つづいて東川会長から年次報告が行われ全員で確認されました。

5) 社会復帰・就労・就学に向けて

◎高次脳機能障がい交流会議(三好保健所主催)

8月24日、スカイピア美馬市脇町小星(障がい就労支援施設)に於いて、高次脳機能障がい交流会議(三好保健所主催)が開かれ、すだちからは7名が参加しました。

◎「高次脳機能障がい者を就労や社会参加につなげる支援」10月5日、アステー徳島で、徳島県精神保健福祉センター主催の高次脳機能障がい支援者研修会が開かれ、滝沢学氏(神奈川リハビリテーション病院社会福祉士)による「高次脳機能障がい者を就労や社会参加につなげる支援」と題して講演されました。すだちからは7名が参加しました。

◎高次脳機能障がい者のリハビリ～通所介護を通じて～

高次脳機能障がい研修会が10月9日、徳島保健所に於いて開かれ、「高次脳機能障がい者のリハビリ～通所介護を通じて～」と題して、北出修子氏(サンガリハビリプラザとくしま理事長)の講演があり、30名の参加者があり「すだち」会員も4名が参加しました。

平成26年活動方針

1、交流会の引き続き定例化と内容充実

- 1) 今年も引き続き「定例交流会」を実施します。会員に対しての、開催日時の定例化はある程度浸透してきていると思われますので、毎月、第3土曜日の10時～12時までを定例家族交流会の時間として、進め方については、会員さんの意見を聞きながら役員会議で確認し進めていくことになります。

二月会日	・ 2月15日	三月会日	・ 3月15日	四月会日	・ 4月19日
五月会日	・ 5月17日	六月会日	・ 6月21日	七月会日	・ 7月19日
八月会日	・ 8月16日	九月会日	・ 9月20日	十月会日	・ 10月18日
十一月会日	・ 11月15日	十二月会日	・ 12月20日		

- 2) 定例会会場は、同一会場を確保します。会場都合により確保できない場合は、事前に会員の皆さんには代替会場を連絡することにします。

- 3) 定例会において、特段の事案協議がある場合は事前に連絡します。
- 4) 定例会にあわせて、役員会議も定例化して行くことにします。
- 5) 交流会を定例化することにより、高次脳機能障がいについての相談の場にします。
- 6) 定例会には、新しい人でも参加できやすい環境を整備、また、いろいろな自発的な訓練、習い事も取り入れていくことになります。
- 7) 障がい者に係わる制度の学習を企画します。学習会には、専門家へ協力を求めて行くことにします

2、会員間の懇親交流会を開催。

- 1) レクレーション、食事会と合わせた会員の懇親交流会を春、秋の年2回企画して行きます。
- 2) 地域会議の充実・各班の会議、地域での相談活動、会員間の交流を図っていくことにします。
- 3) 全国大会への積極参加、参加しやすいように、参加者に資金援助をします。

3、関係行政機関等との懇談会を充実させて行くことにします。

- 1) 家族会として、行政に対する要望、意見を集約し、県を始めとして関係行政 機関に懇談を申し込みます。(高次脳機能障がいの啓蒙と支援の充実)
- 2) 関係行政機関等との懇談時の事案としては、「親無き後の対策」を要望項目に入れて懇談することにします。
 - ① このために在宅介護、施設介護等のあり方、制度について学習を強めることにします。
 - ② 就労・就学対策等要望事項についても、調査を実施し集約をしていくことにします。

4、季刊誌の発行

- 1) 季刊誌「すだち」を3月、7月、11月の定期発行とします。
- 2) 期間中特記すべき事案については号外を発行します。
- 3) 毎月の交流会の情報を会員さんに伝える工夫をします。(会員から情報提供)



お詫びと訂正

総会議案、当年の活動方針中、7pの今年度の、全日本脳外傷友の会全国大会を、神奈川と記載していますが、島根県と訂正します。

第14回全国大会島根大会の開催は、2014年10月25日（24日が交流会）です。